

令和7年度

神戸大学大学院農学研究科博士課程前期課程

学 生 募 集 要 項

食料共生システム学専攻
資源生命科学専攻
生命機能科学専攻

一 般 選 抜

※重要

感染症の影響や不測の事態（自然災害）等により、志願者への緊急の連絡が必要になった場合や、入学者選抜の実施方法等を変更する場合は、農学研究科ウェブサイト（<http://www.ans.kobe-u.ac.jp/jyukensei/top.html>）に掲載しますので、適宜確認してください。特に出願時には必ず確認してください。

外国人留学生で受験を希望される方は、出願前に必ず指導希望教員に連絡をとってください。

神戸大学大学院農学研究科

目 次

一般選抜学生募集要項

1. 募集人員	1
2. 出願資格	1
3. 出願期間	2
4. 出願手続	2
5. 選抜方法, 試験期日及び筆答試験の配点	4
6. 試験場	5
7. 合格者発表	5
8. 入学手続	6
9. 注意事項	6
10. その他	6
11. 出願資格(9)又は(10)による入学者の選抜について	7
12. 出願資格(11)による入学者の選抜について	8
<< 麻しん(はしか)・風しんの感染予防措置 >>	10
別紙「受験専門科目一覧表」	11

農学研究科博士課程前期課程案内

1. 農学研究科の理念と目標	12
2. アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)	12
3. 前期課程教育の特色	12
4. 取得できる学位と後期課程への進学	12
5. 農学研究科の専攻及び講座の内容	13
(参考) 入学試験の状況	18

◎ 出願に必要な本研究科所定の下記の書類は、別途掲載しているファイルをダウンロードし印刷して提出してください。

- 入学願書(裏面に履歴書)
- 受験票(裏面に整理票)
- 住所票
- 検定料振込確認書類貼付票

農学研究科博士課程前期課程一般選抜学生募集要項

1. 募集人員

専攻	募集人員
食料共生システム学専攻	26人
資源生命科学専攻	42人
生命機能科学専攻	52人
計	120人

(注)募集人員にはKobe Global Graduate Program for Agricultural Science (Master's program)選抜による外国人留学生を含む。

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 大学を卒業した者及び令和7年3月31日までに卒業する見込みの者
- (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和7年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和7年3月31日までに修了する見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和7年3月31日までに修了する見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和7年3月31日までに修了する見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該科外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月31日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和7年3月31日までに修了する見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (10) 本研究科において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和7年3月31日までに22歳に達する者
- (11) 令和7年3月31日において大学に3年以上在学し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(注1) 上記の(9)又は(10)の資格によって出願を希望する者については、出願の前に個別の出願資格審査を行いますので、7~8ページを参照して必要な申請をしてください。

なお、(10)の資格に該当する者は、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生、その他の教育施設の修了者です。

(注2) 上記(11)の資格によって出願しようとする者については、事前審査を実施しますので、8~9ページを参照して必要な申請をしてください。

なお、この資格で入学した者は、出身大学における学籍上の身分は退学となり、学士の学位は授与されません。また、各種の国家試験の受験資格で大学卒業が要件になっているものについては、受験資格がないこととなるので注意してください。

3. 出 願 期 間

令和6年7月9日（火）から7月16日（火）まで

受付時間（持参の場合）は、平日 9:00～12:00, 13:00～17:00 まで

郵送による場合は、7月16日（火）消印有効

4. 出 願 手 続

次の書類等を取りそろえ、下記に提出してください。◆印の書類は、農学研究科ウェブサイト (<http://www.ans.kobe-u.ac.jp/jyukensei/siken02.html>) にて所定様式をダウンロードしてください。

(1) 入学願書・履歴書◆	本研究科所定様式【A4 サイズ・両面印刷】
(2) 受験票・整理表◆	本研究科所定様式【A4 サイズ・片面印刷】
(3) 卒業（見込）証明書又は修了（見込）証明書	出身大学の学部長（学長）又は出身学校長等が作成したもの。 （出願資格(9), (10), (11)で出願する者は、不要） ※英語以外の外国語で作成された証明書等については、日本政府又は外国政府の在外公館等の公的機関による翻訳証明を付した日本語訳を必ず添付してください。
(4) 成績証明書	出身大学の学部長（学長）又は出身学校長等が作成したもの。 （出願資格(9), (10), (11)で出願する者は、不要） ※英語以外の外国語で作成された証明書等については、日本政府又は外国政府の在外公館等の公的機関による翻訳証明を付した日本語訳を必ず添付してください。
(5) TOEIC 会員ページ内テスト結果一覧画面「スコア提出履歴一覧」のページと TOEIC Listening & Reading 公開テストのデジタル公式認定証 ※別途, TOEIC 会員ページでスコア提出手続きが必要	出願期間最終日より過去 2 年以内に 試験結果が通知されている TOEIC Listening & Reading 公開テスト のスコアを有効とします。 ・出願期間最終日の 2 年前（2022 年 7 月 17 日）～出願期間最終日（2024 年 7 月 16 日） ※出願期間最終日より過去 2 年以内に試験を実施していても、試験結果が公開されていなければ不可。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">TOEIC 会員ページから下記申請コードを用いてスコア提出手続きを行ってください。提出方法については、TOEIC ウェブページ (https://www.iibc-global.org/toEIC/test/lr/guide04/score2.html) を確認して下さい。 申請コード： 00010404 提出先団体名： 神戸大学 農学研究科 提出後、TOEIC 会員ページのテスト結果一覧画面「スコア提出履歴一覧」で提出が完了していることを確認してください。</div> 出願書類として以下の 2 点を印刷し、提出してください。 ・TOEIC 会員ページのテスト結果一覧画面「スコア提出履歴一覧」のページ ・デジタル公式認定証 (TOEIC 会員ページよりダウンロード可能な PDF) (2023 年 3 月以前に受験した場合は TOEIC Listening & Reading 公開テストのスコアが記載されたページ)
(6) 写真	2 枚。出願前 3 か月以内に撮影したものを、受験票及び整理票の所定欄に貼付してください。
(7) 検定料振込証明書	銀行振込 (ATM・インターネットバンキング) にて検定料 30,000 円を納付し、「ご利用明細票」を検定料振込確認書類貼付票に貼り付けて提出してください。残高表示がある場合は、黒塗り等で残高が見えないようにしてください。インターネットバンキングの振込完了画面を印刷したものを提出しても構いません。

	<ul style="list-style-type: none"> 振込先口座：三井住友銀行六甲支店（普通）4165080 国立大学法人神戸大学 振込名義は必ず「K 6 5 0 3 〇〇〇〇」とすること。 （〇〇〇〇には出願者氏名をカタカナ（外国人留学生はアルファベット）で詰めて入力） <p>※銀行口座から振替による振込を行う場合にも、「依頼人名の変更」等により、氏名の前に「K 6 5 0 3」を付けること。</p> <p>※出願者以外が振込を行う場合も必ず出願者の氏名を入力してください。</p> <p>※K 6 5 0 3の後に入力する振込名義の氏名カナ（外国人留学生はアルファベット）は、表記順序も含め、入学願書に記載の氏名と完全に一致するよう入力してください。</p> <p>例) 瓜坊 太郎（ウリボウ タロウ）さんの場合 振込名義：K 6 5 0 3 ウリボウタロウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 振込にかかる手数料は振込人負担です。 検定料について、大規模自然災害により被災した志願者には、検定料免除の特別措置を講じます。詳細は神戸大学ホームページを参照してください。
(8) 住所票◆	本研究科所定様式（入学手続等書類送付用）【A4 サイズ・片面印刷】
(9) レターパックライト （受験票・受験者心得の郵送を希望する者のみ）	<p>受験票・受験者心得の郵送を希望する者は、以下を必ず同封してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> レターパックライト（「お届け先」欄に郵便番号、住所、氏名を明記したもの。なお、「ご依頼主様保管用シール」ははがさないでください。）
(10) 受験許可書	現に大学院に在学している者（令和7年3月までに修了見込みの者を除く。）は、研究科長（又は学長）の受験許可書を提出してください。
(11) 住民票	日本に居住する外国人の志願者は、市区町村長の発行する住民票を提出してください。日本人の方は不要です。

※ 出願手続を郵送により行う場合は、簡易書留とし、封筒の表に「**農学研究科博士課程前期課程〇〇専攻入学願書在中**」と朱書してください。

※ 入学願書の提出又は送付先

神戸大学大学院農学研究科教務学生係
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

5. 選抜方法、試験期日及び筆答試験の配点

入学者の選考は、筆答試験・口頭試問の成績及び成績証明書を総合して行います。

専攻	講座	選抜方法
食料共生システム学	生産環境工学	英語： TOEIC Listening & Reading 公開テストスコア 専門科目： 別紙「受験専門科目一覧表」で講座別に指定 口頭試問： 講座別
	食料環境経済学	
資源生命科学	応用動物学	
	応用植物学	
生命機能科学	応用生命化学	
	応用機能生物学	

食料共生システム学専攻（生産環境工学講座・食料環境経済学講座）

資源生命科学専攻（応用植物学講座）

試験期日及び時間割

試験期日	試験科目等	試験時間	備考
令和6年 8月20日(火)	筆答試験	10:30~12:00	
	専門科目		
8月21日(水)	口頭試問	13:00~	

筆答試験の配点

専攻	講座	英語	専門科目	合計
食料共生システム学	生産環境工学	100	100	200
	食料環境経済学	100	100	200
資源生命科学	応用植物学	100	100	200

資源生命科学専攻（応用動物学講座）

試験期日及び時間割

試験期日	試験科目等	試験時間	備考
令和6年 8月20日(火)	筆答試験	10:30~12:30	
	専門科目		
8月21日(水)	口頭試問	13:00~	

筆答試験の配点

専攻	講座	英語	専門科目	合計
資源生命科学	応用動物学	160	140※ 100※	400

※ 専門基礎科目 140 点，第 1 志望の科目 100 点。詳細は，11 ページを参照してください。

生命機能科学専攻（応用生命化学講座）

試験期日及び時間割

試験期日	試験科目等	試験時間	備考
令和6年 8月20日(火)	筆答試験 専門科目	10:30~13:30	
8月21日(水)	口頭試問	13:00~	

筆答試験の配点

専攻	講座	英語	専門科目	合計
生命機能科学	応用生命化学	100	150※ 50※	300

※ 共通科目 150点、第1志望の科目 50点。詳細は、11ページを参照してください。

生命機能科学専攻（応用機能生物学講座）

試験期日及び時間割

試験期日	試験科目等	試験時間	備考
令和6年 8月20日(火)	筆答試験 専門科目	10:30~12:30	
8月21日(水)	口頭試問	13:00~	

筆答試験の配点

専攻	講座	英語	専門科目	合計
生命機能科学	応用機能生物学	100	100	200

6. 試験場

神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学大学院農学研究科学舎
(市バス36系統「神大文理農学部前」下車)

7. 合格者発表

令和6年9月10日(火) 午前10時(予定)に農学研究科ホームページ
(<http://www.ans.kobe-u.ac.jp/jyukensei/top.html>)で発表します。

※ 合格者には郵送により通知します。なお、電話等による照会には一切応じません。

8. 入学手続

(1) 入学手続期日・入学手続書類等

入学手続期日は、令和7年3月中旬の予定です。その詳細については、入学手続に必要な書類等と併せて令和7年2月下旬～3月上旬に通知(郵送)します。

(2) 納付金

区 分	金 額	摘 要
入 学 料	282,000 円	入学料については、入学手続期日までに納付してください。
授業料	前期分 267,900 円	合格者発表時に郵送する「入学試験合格者へのお知らせ」や入学手続時に配付する「新入生の手引き」等をご覧ください。 在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。
	年 額 535,800 円	

(注) 上記の金額は、令和6年度の例です。

9. 注意事項

- 出願手続後の記載事項の変更は認めません。また、納付した検定料は出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。
- 既納の入学料はいかなる理由があっても返還しません。
- 試験当日は、必ず受験票を携帯してください。
- 時計は、時計機能だけのものを使用してください。
- 受験のための宿舎の紹介はしません。
- 出願書類の不備なものは受理しないので、記載事項に記入漏れ、誤記のないよう十分注意してください。
- 虚偽の申告をした者又は出願資格を満たすことができない者については、たとえ入学後であっても入学を取り消します。
- 障害のある者等で、受験上及び修学上の配慮を希望する入学志願者は、出願の1か月前までに農学研究科教務学生係に申し出て相談してください。
事前相談は障害のある者等に本学の現状をあらかじめ知っていただき、受験及び修学にあたってより良い方法やあり方を実現するためのもので、障害のある者等の受験や修学を制限するものではありません。相談の内容によっては対応に時間を要することもありますので、できるだけ早い時期に相談してください。
- 外国人留学生で受験を希望される方は、出願前に指導希望教員に必ず連絡をとってください。

10. その他

(1) 入学料免除

次のいずれかに該当し入学料の納付が困難な場合は、本人の申請に基づいて選考の上、入学料の全額又は半額が免除される制度があります。

①入学前1年以内に、学資の負担者が死亡し、又は入学者本人もしくは学資の負担者が風水害等の災害を受けた場合

②入学者本人が学業優秀で、かつ、経済的理由により入学料の納付が困難な場合

③その他、①に準ずる場合で本学が相当と認める事由があるとき

(2) 入学料徴収猶予

次のいずれかに該当し納付期限までに入学料の納付が困難な場合は、本人の申請に基づいて選考の上、入学料が徴収猶予される制度があります。

①入学前1年以内に、学資の負担者が死亡し、又は入学者本人もしくは学資の負担者が風水害等の災害を受けた場合

②入学者本人が学業優秀で、かつ、経済的理由により納付期限までに入学料の納付が困難な場合

(3) 授業料免除

次のいずれかに該当し授業料の納付が困難な場合は、本人の申請に基づいて選考の上、授業料の

全額又は半額が免除される制度があります。

①入学前1年以内に、学資の負担者が死亡し、又は申請者本人もしくは学資の負担者が風水害等の災害を受けた場合

②申請者本人が学業優秀で、かつ、経済的理由により授業料の納付が困難な場合

(4) 奨学金

独立行政法人日本学生支援機構が行う奨学金のほか、各種団体等の奨学金制度があります。詳細については別途お知らせします。

(5) 個人情報について

①本学が保有する個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「神戸大学の保有する個人情報の管理に関する指針」等に基づき厳密に取扱います。

②入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入学者の選抜（出願処理、選抜実施）、合格発表、

入学手続業務、今後の入学者選抜方法及び大学教育改善のための調査・研究のために利用します。なお、調査・研究及び結果の発表に際しては、個人が特定できないように処理します。

③出願にあたってお知らせいただいた個人情報は、入学者についてのみ入学後の学生支援関係（健康管理、授業料免除及び奨学金申請）、教務関係（学籍、修学指導）等の教育目的及び授業料等に関する業務並びにこれらに付随する業務を行うために利用します。

④一部の業務を本学より委託を受けた業者（以下、「受託業者」という。）において行うことがあります。業務委託にあたっては、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、お知らせいただいた個人情報の全部又は一部を守秘義務を課して提供します。

(6) 農学研究科入学試験の過去の問題について

農学研究科入学試験の過去問題の閲覧等が必要な場合は、神戸大学ホームページの入学案内・関連する情報を参照してください。<http://www.ans.kobe-u.ac.jp/jyukensei/siken02.html>

11. 出願資格(9)又は(10)による入学者の選抜について

(1) 出願資格

①出願資格(9)について

学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたものとします。(大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したことにより、所定の修業年限未滿で大学院に入学した者が、その後に本研究科に入学しようとする場合が該当します。)

②出願資格(10)について

本研究科において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和7年3月31日までに22歳に達する者とします。

(短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者、その他の教育施設の修了者が該当します。)

(2) 事前審査

前記のいずれかの出願資格により出願しようとする者は、出願に先立ち、本研究科の個別の出願資格審査を受け、出願資格の認定を必ず受けてください。

① 申請手続

受付期間 令和6年5月27日(月)から5月31日(金)までです。

持参する場合の受付時間は、平日9:00~12:00, 13:00~17:00まで。

※ 郵送による場合は、必ず書留郵便とし、封筒の表に「**農学研究科博士課程前期課程事前審査申請書類在中**」と朱書きし、受付期間内に**必着**するよう送付してください。

提出又は送付先

神戸大学大学院農学研究科教務学生係

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

②提出書類

ア 出願資格審査申請書(本研究科所定の用紙)

イ 学歴等(次の書類を提出してください。)

・最終卒業学校の成績証明書、卒業又は修了(見込)証明書を提出してください。(出願資格(9)による場合は、在籍した最終大学の退学証明書、成績証明書及び在籍大学院研究科の成

績証明書を提出してください。)

- ・最終卒業学校の概要を示す書類（例えば、学校案内等の部分的なコピー）を提出してください。
- ・研究機関・教育機関・企業等で研究・実験等に従事した者は、著書・論文・報告書等があれば提出してください。この際、本人の関わった部分を記入した用紙を添付してください。

ウ 社会活動歴、実務経験歴等

日本・海外における活動経験等、企業等における実務経験等、その他特記すべき事項について、具体的に自由形式で記述したものを提出してください。

エ 返信用封筒

(長形 3 号, 縦 23.5cm, 横 12.0cm で 254 円相当の切手を貼付し, 郵便番号, 住所, 氏名を明記したもの。)

③審査方法

書類審査により実施します。

④出願資格審査の結果通知

令和 6 年 7 月 1 日 (月) までに本人あてに文書で通知します。なお、電話等による照会には一切応じられません。

(3) 出願手続

事前審査により出願資格の認定を受けた志願者は、本募集要項に基づき、出願手続を行ってください。

なお、この場合は出願書類中の成績証明書及び卒業（修了）証明書の提出は不要です。

(4) 出願資格審査申請書類の請求方法

- ①一般選拔出願資格(9)又は(10)による申請であること、②最終卒業学校等名を明記し、封筒に「**農学研究科博士課程前期課程出願資格審査申請書類請求**」と朱書し、返信用封筒(角形 2 号, 縦 33.2cm, 横 24.0cm で 470 円分の切手を貼付し, 郵便番号, 住所, 氏名を明記したもの)を同封のうえ、農学研究科教務学生係に請求してください。

12. 出願資格(11)による入学者の選抜について

(1) 出願資格

令和 7 年 3 月末日で大学に 3 年以上在学し、本研究科における事前審査により、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者としてします。

(2) 事前審査

この出願資格により出願しようとする者は、出願に先立ち、本研究科の事前審査を受け、出願資格の認定を必ず受けてください。

① 申請手続

受付期間 令和 6 年 5 月 27 日 (月) から 5 月 31 日 (金) までです。

持参する場合の受付時間は、平日 9:00~12:00, 13:00~17:00 まで。

- ※ 郵送による場合は、必ず書留郵便とし、封筒の表に「**農学研究科博士課程前期課程事前審査申請書類在中**」と朱書し、受付期間内に**必着**するよう送付してください。

提出又は送付先

神戸大学大学院農学研究科教務学生係
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

②提出書類

- ア) 事前審査申請書 (本研究科所定の用紙)
- イ) 成績証明書 (在籍大学の学部長 (又は学長) が作成したもの)
- ウ) 推薦書 (本研究科所定の用紙: 指導教員又はこれに準ずる者が作成し、親展書として厳封したもの)
- エ) 自薦の書 (本研究科所定の用紙)
- オ) 在籍大学学部・学科の履修規則及び講義要項等 (本学在籍者は提出しなくてよい)
- カ) 返信用封筒

(長形 3 号, 縦 23.5cm, 横 12.0cm で 254 円相当の切手を貼付し, 郵便番号, 住所, 氏名を明記したもの。)

③審査方法

書類審査により実施します。

④事前審査の結果通知

令和6年7月1日(月)までに本人あてに文書で通知します。なお、電話等による照会には一切応じられません。

(3) 出願手続

事前審査により出願資格の認定を受けた志願者は、本募集要項に基づき、出願手続を行ってください。

なお、この場合は出願書類中の成績証明書の提出は不要です。

(4) 選抜方法及び合格者発表等

①学力検査(筆答試験、口頭試問)、成績証明書を総合して選抜し、優秀な成績を修めた者と認めた場合は、仮合格者として令和6年9月10日(火)午前10時に発表します。

② 仮合格者については、令和7年3月に最終審査を行います。

(必要書類、提出時期、最終合格者発表等については、別途通知します。)

(5) 事前審査申請書類の請求方法

①一般選抜出願資格(11)による申請であること、②在学大学名及び学年等を明記し、封筒に「**農学研究科博士課程前期課程事前審査申請書類請求**」と朱書し、返信用封筒(角形2号、縦33.2cm、横24.0cmで470円分の切手を貼付し、郵便番号、住所、氏名を明記しもの)を同封のうえ、農学研究科教務学生係に請求してください。

- * 感染症の影響や不測の事態(自然災害)等によっては、試験の延期や試験内容を変更することがあります。その場合は、農学研究科ホームページにその旨を案内しますので、適宜ご確認いただくようお願いいたします。
- * 応募に際して不明な点があれば、下記へお問い合わせください。

神戸大学大学院農学研究科教務学生係 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 TEL (078) 803-5928 FAX (078) 803-5932 E-mail ans-kyomu@office.kobe-u.ac.jp
--

《 麻しん（はしか）・風しんの感染予防措置 》

麻しん・風しんのワクチン接種（予防接種）・抗体検査に関する書類の提出について

神戸大学では「麻しん風しん登録制度」を定め、入学後のキャンパス内での麻しん・風しんの流行を防止するため、全ての新生に次の①、②、③のいずれかを提出していただいています。

- ① 麻しん・風しんのワクチン接種を、満1歳以降にそれぞれについて2回ずつ受けたことを証明する書類（推奨）
- ② 過去5年以内（令和2(2020)年4月以降）に麻しん・風しんのワクチン接種を、それぞれについて1回ずつ受けたことを証明する書類
- ③ 過去5年以内（令和2(2020)年4月以降）に受けた麻しん・風しんの抗体検査の結果が、「麻しん・風しんの発症を防ぐのに十分な血中抗体価（次頁の表を参照）を有していること」を証明する書類

- * ①、②のワクチンは、麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）等の混合ワクチンでもかまいません。
- * ①、②では、接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていることが必要です。
- * 母子手帳等のワクチン接種記録や接種済証も、接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていれば①、②の書類として使用できます。
- * 既往歴（かかったこと）がある場合は、③を提出するか、ワクチン接種を受けて①か②を提出してください。
- * ③では、次頁の表の血中抗体価の測定方法と測定値が記載され、測定値が同表の判定基準を満たしていることが必要です。血液検査結果票そのものの提出でもかまいません。血中抗体価が不十分な場合には、必要なワクチン接種を受け、①か②を提出してください。
- * ①、②、③の書類の組み合わせ、例えば麻しんについては①、風しんについては③を提出してもかまいません。
- * 麻しん・風しんの血中抗体価が不十分にもかかわらず、病気や体質等やむを得ない事情によってワクチン接種を受けられない場合には、その旨を記載した文書（医師による証明書等）を提出してください。
- * 上記のいずれの書類も入学試験の合否判定に用いるものではありません。

提出期限：4月入学者は新生健康診断実施日、10月入学者は10月入学者健康診断実施日

提出先：健康診断会場内 麻疹風疹登録受付

麻しん・風しんの発症を防ぐのに十分な血中抗体価の測定方法と判定基準

区 分	測定方法	判定基準	備 考
麻しん	IgG-EIA 法	8.0以上の陽性	3つの測定方法のうち、いずれかで陽性
	PA 法	256倍以上の陽性	
	NT 法	4倍以上の陽性	
風しん	HI 法	32倍以上の陽性	2つの測定方法のうち、いずれかで陽性（HI法を推奨）
	IgG-EIA 法	8.0以上の陽性	

- * ワクチン接種歴が条件を満たす場合や追加接種する場合は、抗体検査は不要です。
- * 血中抗体価の測定は、この表の方法によってください。
- * 発症を防ぐのに十分な血中抗体価は、測定方法によって異なります。また、単に抗体陽性とされる値よりは高い値なので注意してください。
- * 医療機関を受診する際には、必要なワクチン接種や抗体検査を受けることができるか、予め確認してください。また、この学生募集要項を医師に提示するなどして必要な証明書を発行してもらってください。

この感染予防措置に関する問い合わせは

神戸大学 保健管理センター TEL 078-803-5245

神戸大学 学務部学生支援課 TEL 078-803-5219

別紙「受験専門科目一覧表」

専攻	講座	教育研究分野	受 験 専 門 科 目	受験専門科目選択方法等	
食料共生システム学	生産環境工学	水環境学	水環境学(水理学, 水文学, かんがい排水学)	志望する教育研究分野の1科目を受験すること。解答時に, 受験専門科目の内容を示す()内の小問から2問を選択すること。 *印を付した科目では関数電卓(シャープ製ピタゴラス EL-501J-X)を貸与し, 使用を認める。 第2志望を認めない。	
		土地環境学	土地環境学(構造力学, 土質力学, 水利施設工学)		
		施設環境学	施設環境学(構造力学, 土質力学, 水利施設工学)		
		地域共生計画学	地域共生計画学(農村計画学, 農村環境論)		
		農産食品プロセス工学	農産食品プロセス工学*(食品工学, 熱力学及び伝熱工学)		
		生物生産機械工学	生物生産機械工学*(農業機械学, 工業力学, 材料力学)		
		生物生産情報工学	生物生産情報工学*(生物生産情報工学, 材料力学, 熱力学及び伝熱工学)		
		圃場機械・栽培学	圃場機械・栽培学*(農業機械学, 工業力学, 材料力学)		
	食料環境経済学	食料経済・政策学	食料経済・政策学		第1志望の教育研究分野の1科目を受験すること。受験専門科目欄の()内は受験専門科目に含まれる内容を示す。 同一講座内での第2志望を認める。
		農業農村経営学	農業農村経営学		
国際食料情報学		国際開発学又は統計学【出願時に選択】			
資源生命科学	応用動物学	動物遺伝育種学	動物遺伝育種学	専門基礎科目及び第1志望の教育研究分野の科目の計2科目を受験すること。受験専門科目欄の()内は受験専門科目に含まれる内容を示す。 第2志望を認めない。	
		生殖生物学	生殖生物学・発生工学		
		発生工学	生殖生物学・発生工学		
		栄養代謝学	栄養代謝学		
		動物分子形態学	形態機能学(解剖学, 細胞学, 組織学, 生理学)		
		組織生理学	形態機能学(解剖学, 細胞学, 組織学, 生理学)		
		感染症制御学	微生物学・免疫学		
		動物遺伝資源開発学	動物遺伝資源開発学(家畜育種学, 畜産学)		
		細胞情報学	細胞情報学		
	応用植物学	資源植物生産学	資源植物生産学(食用資源植物学, 産業資源植物学)	志望する教育研究分野の1科目を受験すること。受験専門科目欄の()内は受験専門科目に含まれる内容を示す。 第2志望を認めない。	
		植物育種学	植物育種学		
		森林資源学	森林資源学(森林生態学, 森林保護学, 樹木生理学, 樹木組織学)		
		園芸植物繁殖学	果樹園芸学又は野菜園芸学【出願時に選択】		
		園芸生産開発学	園芸生産開発学(花卉園芸学, 野菜園芸学)		
		園芸生理生化学**			
熱帯有用植物学		熱帯有用植物学・植物成長生理学			
植物遺伝資源開発学		植物遺伝資源開発学(植物遺伝育種学, 作物進化学)			
生命機能科学	応用生命化学	生物化学	生物化学	共通科目及び第1志望の教育研究分野の科目の計2科目を受験すること。同一講座内での第2志望を認める。 なお, 共通科目では, 生物(生化学, 微生物学, 分子生物学)および化学(有機化学, 物理化学)の基礎知識を問う。	
		食品・栄養化学	栄養機能化学		
		天然有機分子化学	有機合成化学		
		有機機能分子化学**			
		植物機能化学	植物天然物化学		
		動物資源利用化学	動物資源利用学		
		微生物資源化学	環境微生物学		
		生物機能開発化学	生物機能開発化学		
	応用機能生物学	土壌学	土壌学	「基礎分子生物学」「基礎分析化学」「基礎生態学」から解答時に任意に選択する1科目ならびに志望する教育研究分野の科目の合計2科目を受験すること。 受験専門科目欄の()内は受験専門科目に含まれる内容を示す。 第2志望を認めない。	
		植物栄養学	植物栄養学		
		植物遺伝学	遺伝学		
		栽培植物進化学	栽培植物進化学		
		細胞機能構造学	細胞生物学		
		環境物質科学	環境物質科学(農薬生化学, 応用遺伝子工学)		
		細胞機能制御学	細胞機能制御学		
植物病理学		植物病理学			
昆虫分子機能科学		昆虫分子機能科学			
昆虫多様性生態学		昆虫多様性生態学			

** 印を付した教育研究分野については, 学生の募集は行いません。

(注) 入学願書等に受験専門科目名を記入すること。

神戸大学大学院農学研究科博士課程前期課程案内

1. 農学研究科の理念と目標

農学は、自然及び人工生態系の保全を図り、衣食住のもととなる生物資源の生産・管理・利用と開発を通じて人間社会に貢献する「持続共生の科学」を理念としています。この農学理念の実現に向かう教育研究組織としての農学研究科は、「食料・環境・健康生命」に関わる諸問題を総合的に教育研究することを基本目的とし、各キーワードに対応した以下の3専攻で組織されています。

- (i) 食料共生システム学専攻は、農業工学及び農業経済学の知識と技術を協働し、食料の生産者と消費者が環境保全型持続社会を通して共生するための生産基盤構築から流通・消費に至る全プロセスの体系化を教育研究の目的としています。
- (ii) 資源生命科学専攻は、人類生存の根本的課題である食料生産の質と量の向上を図るため、動植物遺伝資源の探索・開発と改良を担い、21世紀の食料生産に貢献することを教育研究の目的としています。
- (iii) 生命機能科学専攻は、農業と食料の基本となる生命現象を生物学・化学の両面から解明し、農産物および食品の安全性向上と機能開発を通して人の健康の維持・増進に貢献することを教育研究の目的としています。

農学研究科の大学院教育においては、これら専攻の専門性を発展・進化させるとともに、各専攻に学際性と総合性をビルトインし、専攻間で単位の互換や情報の交換による複眼的な見方や思考力を培う教育研究を展開します。このことにより、独創的な学術研究と科学技術開発を担う優れた研究者・教育者や指導的役割を担う高度専門職業人など、地域・国際社会で活躍できる人材を育成することを目指しています。

2. アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

農学研究科博士課程前期課程では、それぞれの専攻分野において幅広い知識を有し、問題解決能力と学際的視点をもった国際性及び創造性豊かな人材を養成することを目指しています。このため、農学分野の堅実な基礎学力を持つ人、論理的な思考能力に優れた人、知的好奇心に富み農学に対し探求心や高い学習意欲をもつ人、さらには、産業社会や公的機関で農学の知識をさまざまな形で活用したい人などを受入れます。

3. 前期課程教育の特色

- (1) 「食料・環境・健康生命」に対応した研究科内横断型のコア科目を履修することによって、農学の幅広い素養と学際性を身につけることができます。
- (2) 専攻の前期課程授業科目は、より専門的な後期課程の授業科目とつながるように体系化されています。
- (3) 授業科目「プレゼンテーション演習」を履修することによって、研究成果をまとめる能力、発表する能力、表現する能力を身につけることができます。
- (4) アジア地域の持続的食料生産と環境保全に関する授業科目を履修することによって、国際的視野から活躍するリーダーとしての素養を身につけることができます。

4. 取得できる学位と後期課程への進学

一定の単位を修得し、修士論文審査に合格した学生は、修士（農学）の学位を取得することができます。また、前期課程を修了した学生が引き続き後期課程に進学する場合には、後期課程への入学金は必要ありません。前期課程において優れた研究業績をあげた学生は1年以上の在学で修了し、後期課程に進学することができます。

専攻及び講座の内容

(1)食料共生システム学専攻

発展途上国における人口爆発や地球環境問題の深刻化に伴い、近未来における世界の食料供給が不安視されています。特に、著しく低い我が国の食料自給率は、食料の安定的な供給システムの創成を必要としています。食料共生システム学専攻では、食料の生産者と消費者が環境保全型持続社会を通して共生するための生産基盤構築から流通・消費に至る全プロセスの体系化を目的とした教育研究を行います。食料や環境に関する幅広い知識・技術を備え、公共部門および民間部門で活躍できる人材を養成するため、食料共生システム学専攻に生産環境工学及び食料環境経済学の2講座を設けています。

令和6年4月1日現在

講 座		教 育 研 究 分 野		担 当 教 員	
名称	内 容	名 称	内 容		
生産環境工学	農業生産環境の構成要素である水資源・土地資源の利用と保全、作物の栽培管理・収穫・加工に関する機械装置の開発などの農業工学分野の教育研究を行います。	水環境学	河川流域の水循環機構および水量・水質の両面から見た水環境特性の把握、流域における水循環と物質循環のモデル化と水資源管理への応用に関する教育研究を行います。	多田 明夫	准教授
		土地環境学	農地や農村のきれいで安全な環境づくりを目指して、ため池やパイプラインを含む農地、農道、水路などの農業水利施設の合理的な設計施工、災害防止の方法や手段に関する教育研究を行います。	澤田 豊 園田 悠介	教授 助教
		施設環境学	水、土、水利施設などからなる農業地域システムの好適創造を目指して、水の動きの解析、地下水力学、水と土の相互作用、水利施設の調査・計画・設計・保全に関する教育研究を行います。	井上 一哉 鈴木 麻里子	教授 助教
		地域共生計画学	日本と世界の農業・農村環境は今急速に変化しています。様々な空間・時間スケールで環境と社会を分析し、持続的な資源管理と制度設計を模索します。	長野 宇規	准教授
		農産食品プロセス工学	農産資源および食品を対象とした物質変換、加工処理およびバイオプロセッシングに関する理論と技術、バイオマスエネルギー利用、生産から消費、廃棄に亘るフードチェーンの管理システムに関する教育研究を行います。	井原 一高 吉田 弦	教授 助教
		生物生産機械工学	主として土地利用作物及び果樹園芸におけるスマート農業技術の開発を行います。特に農業機械、ロボットなどに搭載したセンシングデータの解析技術、および農業生産現場で利活用可能な農業DXの構築や社会実装についての教育研究を行います。	森本 英嗣	准教授
		生物生産情報工学	主として閉鎖系空間における生産と収穫後処理を包含する生物生産システムを対象とし、工学的手法による育成中及び貯蔵中に作物が示す応答特性の非破壊計測と理論的解明、得られた結果を生産現場にフィードバックするための統合生産システムについて教育研究を行います。	伊藤 博通 黒木 信一郎	教授 准教授
		圃場機械・栽培学	主としてフィールドにおける作物の栽培システムを対象とし、栽培技術と作物特性の理解に基づく農業機械の設計開発と実証を行い、日本国内のみならず国際的にさまざまな栽培環境下での応用を視野に入れた教育研究を行います。	庄司 浩一 ◇	准教授
食料環境経済学	グローバルな食料・農業・農村・環境問題を解決するための政策や実践、農業経営や農村の持続的発展、食料の流通や消費者行動、フードセキュリティなどに関する社会科学的な教育研究を行います。	食料経済・政策学	国内外の農林水産・食料関連ビジネス、農林水産物や食品の生産・加工・流通・消費、都市農村交流やツーリズム、それに関わる政府・企業・住民組織などの問題発見と解決のプロセスに着目しながら持続可能な経済システムと政策のあり方を解明する教育研究を行います。	高田 晋史	准教授
		農業農村経営学	農産物・食料を持続的かつ効率的に生産・供給していくための農業経営や地域資源管理のあり方や、農山村地域の維持・発展に関して、経営学や社会学などの考え方や分析方法による理論的・実証的な教育研究を行います。	中塚 雅也 小川 景司	教授 助教
		国際食料情報学	子どもや高齢者の食行動・食意識、貧困世帯や社会的弱者のフードセキュリティ、貧困と格差、フードシステム、農産食品マーケティング、農村開発などに関する国内外の社会調査データを用いた実証的研究、および社会調査や統計データなどの統計処理法に関する教育研究を行います。	石田 章 八木 浩平	教授 准教授

備考:◇印は附属食資源教育研究センター所属の教員。

備考:*印は令和7年3月で退職予定の教員。

(2)資源生命科学専攻

食料や産業用原料となる動物や植物は、人類生存の鍵を握る重要な生物資源です。資源生命科学専攻では、有用な動物、植物、微生物とそれらの相互関係について、遺伝子・個体・集団・種・生態系レベルで基礎から応用に至るまでの教育研究を進めるとともに、生物資源の管理・利用と食料の効率的で持続可能な生産技術の開発、さらには安全・安心な食料生産に関わる教育研究を推進しています。これによって、高度な専門的知識と総合的な思考力をもち、食料生産から先端バイオ分野までの幅広い領域を担うことのできる人材を養成します。資源生命科学専攻には応用動物学講座と応用植物学講座の2講座が設けられており、それぞれ動物と植物を中心にした教育研究を展開しています。

令和6年4月1日現在

講 座		教 育 研 究 分 野		担 当 教 員	
名 称	内 容	名 称	内 容		
応用動物学	遺伝学，生化学，形態学，免疫学的手法を基に，動物に関わる生命現象および動物の有する多様な機能とその制御機構を集団・個体・細胞・分子レベルで総合的に理解し，動物資源を有効，安全かつ安定的に利用するための教育研究を行います。	動物遺伝育種学	動物の多様な特性の発現を支配する遺伝的メカニズムの解明や遺伝的能力の評価と開発を通じて，動物機能を有効に利用するとともに，遺伝資源の探索と多様性の保全に関する教育研究を行います。	万年 英之 笹崎 晋史 川口 美岐	教授 准教授 助教
		生殖生物学	哺乳類での生殖細胞の形成や機能発達に関わる細胞内シグナル伝達機構や分子・細胞レベルでの生殖細胞特有の制御機構に関する教育研究を行います。	原山 洋 京極 博久	教授 助教
		発生工学	哺乳類の配偶子形成や受精・胚発生に関わる分子・細胞レベルでの制御機構の解明と，発生工学的な新規手法の確立に関する教育研究を行います。	李 智博	准教授
		栄養代謝学	遺伝子から個体レベルにわたる栄養素の代謝調節機構の分子生物学的な解明と，それに基づく分子栄養学的制御ならびに機能開発に関する教育研究を行います。	本田 和久 實安 隆興 竹垣 淳也	教授 准教授 助教
		動物分子形態学	生命科学の基盤をなす形態学の膨大な知見と最新の分子生物学的知見とを融合し，分子から生体までの幅広い分野を包含する教育研究を行います。	横山 俊史	助教
		組織生理学	動物体の基本的構成要素である細胞や，これによって構築された各種組織の複合的な活動の結果として生じた様々な生理学的機能発現のメカニズムに関する教育研究を行います。	万谷 洋平	准教授
		感染症制御学	動物や人の感染症の原因となる病原微生物について，生態学，疫学，感染発病機構ならびに防御機構の面から幅広く探究することを目的とした教育研究を行います。	佐伯 圭一 松尾 栄子	准教授 助教
		動物遺伝資源開発学	持続的食料生産を担う効率的育種プログラムの策定を目指し，量的遺伝学および集団遺伝学的手法による動物遺伝資源の評価・利用に関する教育研究を行います。	大山 憲二 ◇ 本多 健 ◇	教授 助教
		細胞情報学	生理活性物質やストレス・栄養変化といった外界環境からの入力が細胞の機能を制御する仕組みに関する教育研究を行います。	中嶋 昭雄 ▲ 蜷川 暁 ▲	准教授 助教

備考:◇印は附属食資源教育研究センター所属の教員。

備考:▲印はバイオシグナル総合研究センター所属の教員。

備考:*印は令和7年3月で退職予定の教員。

講 座		教 育 研 究 分 野		担 当 教 員	
名称	内 容	名 称	内 容		
応用植物学	日常生活を支えている資源植物である食用作物, 園芸植物, 産業用植物及び樹木の生理, 生態, 遺伝学的特性を理解し, それらの生産性と品質の向上を目指した教育研究を行います。	資源植物生産学	安全で持続性のある農業生産を確立するため, 食用および産業用資源植物の生理生化学的・分子生物学的な機能解析を行い, 資源植物の生産性向上を目指した教育研究を行います。	深山 浩 島中 知子 笹山 大輔	教授 准教授 助教
		植物育種学	農業上有用な遺伝子の検出と同定ならびに形質発現作用の解明を通じて, 新たな育種素材の開発と育種効率の改善を目標とした教育研究を行います。	石井 尊生 石川 亮	教授 准教授
		森林資源学	森林生態学, 樹木生理学・組織学, 森林病理学などの基礎知識をもとに, 森林や樹木の機能を解明し, 森林資源の保全と管理に貢献する教育研究を行います。	石井 弘明 東 若菜	教授 助教
		園芸植物繁殖学	園芸植物の繁殖様式は, 受粉・受精・種子形成の過程を経る種子繁殖と, それを経ない栄養繁殖に大別され, 種子形成過程は果実の結実にも関連する。繁殖のメカニズムを解明・制御することで, 種苗生産と果実生産に貢献するための教育研究を行います。	安田(高崎)剛志 藤本 龍	教授 准教授
		園芸生産開発学	園芸作物の生産性と有用性を高めることを目的とし, 環境ストレス耐性や機能性を備えた品種の育成と, 光利用効率や作業性を高める施設栽培法の構築を行うことで, 植物の機能開発と栽培のシステム開発に貢献する教育研究を行います。	宇野 雄一 小山 竜平	教授 助教
		園芸生理生化学	果樹, 野菜, 花卉などについて, その生育から収穫・貯蔵期にわたり, 基本的な炭素や窒素の代謝をはじめ, 二次代謝物も含めた代謝生理について, 分子生物学的および生化学解析を行い, 高品質な園芸作物の生産・流通・貯蔵に貢献するための教育研究を行います。		
		熱帯有用植物学	熱帯の様々な環境で生育している植物の適応メカニズムについて, 分子から生体レベルまでの幅広い視野で解明することにより熱帯有用植物の生産安定を目指した教育研究を行います。	東 哲司	教授
		植物遺伝資源開発学	持続的食料生産を担うため, 効率的育種プログラムの策定と新規育種素材の開発を目指し, 植物遺伝資源の探索・収集・保存・評価・管理・利用に関する教育研究を行います。	吉田 康子 ◇	助教
食料生産フィールド科学(連携)	食料生産フィールド科学	病害虫, 環境, 生物工学分野の実用的な技術開発と実証・実践を通じて, 安定的かつ安全・安心な食料生産を目指した教育研究を行います。	岩本 英治 廣田 智子 杉本 琢真	客員教授 客員准教授 客員准教授	

備考:◇印は附属食資源教育研究センター所属の教員。

備考:*印は令和7年3月で退職予定の教員。

(3) 生命機能科学専攻

食と農に関わる生物の多様な機能と現象を分子レベルから生態系まで多面的に捉えて解析する能力を持ち、農作物、食品・化学・医薬等に関連したバイオ産業の発展や農環境の保全と創造など、生物とその機能の利用、開発、制御を通じて21世紀のバイオ社会を支える人材を育成します。特に、専門領域を対象に視点に幅を持たせ、食品系、化学系、生物系など、実際の進路選択も念頭に置いた体系的な講義カリキュラムを提供することにより、優れた科学的思考力と実験力、表現力を涵養します。このため、生命機能科学専攻に应用生命化学及び应用機能生物学の2講座を設けています。

令和6年4月1日現在

講 座		教 育 研 究 分 野		担 当 教 員	
名称	内 容	名 称	内 容		
应用生命化学	生物が摂取・産生する物質や生物を取り巻く環境中の物質構造と作用、及び多様性に富んだ生命システムを分子レベルで解明し、これらを利用、合成、制御、開発するための教育研究を行います。	生物化学	生命現象を分子レベルで解明するため、遺伝子発現調節と細胞内シグナル伝達機構、細胞内オルガネラの機能、機能タンパク質の構造機能相関等について、バイオテクノロジーへの応用も視野に入れた教育研究を行います。	宇野 知秀 金丸 研吾 林 大輝	教授 准教授 助教
		食品・栄養化学	食品に含まれる栄養成分と非栄養成分が、間接的あるいは直接的に情報伝達系を介してヒトの体を機能調節する機構を個体レベルから分子レベルにおいて解明し、機能性食品への開発も含めた教育研究を行います。	榊原 啓之 橋本 堂史 藍原 祥子	教授 准教授 助教
		天然有機分子化学	生物活性を有する天然有機分子の化学合成法の開発や有機合成手法による化学構造と生物活性の相関関係の解明を目指した教育研究を行います。	久世 雅樹 姜 法雄	教授 助教
		有機機能分子化学	有用有機化合物を効率的に供給する手段としての有機化学に関する研究を行い、特に、環境への負荷の小さい、環境調和型の新有機合成反応の開発を目指した教育研究を行います。		
		植物機能化学	植物二次代謝産物の化学構造・生合成・作用機構、および植物と周囲の生物との相互作用ならびに環境応答を、解明・解析することを通して、植物機能の理解と応用に関する教育研究を行います。	水谷 正治 山内 靖雄	教授 准教授
		動物資源利用化学	動物資源としてのタンパク質と脂質に着目し、その生体内での機能を調べることにより、品質管理や病気などの様々な新規マーカーの創生と、機能性食品やヘルスケア商品の開発、さらには創薬への応用を目指しています。とくに、マウスや培養細胞を用いて、情報伝達や腸内細菌叢に着目して研究を行っています。	白井 康仁 上田 修司 福田 伊津子	教授 助教 助教
		微生物資源化学	微生物資源の利活用を目的として、自然界から有用微生物を探索し、その酵素系や遺伝子群の特性を明らかにするとともに、それらを物質変換や環境改善へ応用する教育研究を行います。	竹中 慎治 木村 行宏	教授 准教授
		生物機能開発化学	生物の優れた機能や機能分子を見出し、その作用機構を解明することで、健康・食糧・環境に関わる諸問題の解決に向けた教育研究を行います。	山下 陽子	准教授

備考:*印は令和7年3月で退職予定の教員。

講座		教育研究分野		担当教員	
名称	内容	名称	内容		
応用機能生物学	多様な生物が農環境(農業生態系)で織り成す生命現象を解明し、農環境の健全性を保ちながら持続可能な生物生産システムを創造するための教育研究を行います。	土壌学	地球温暖化や気候変動に大きな影響をもたらす土壌生態系における炭素循環プロセスを理解するために、土壌や河川・湖沼中の有機物の質と量を解析しています。また、これらの有機物の機能性に着目し、環境保全・修復への活用法の策定をも目指した教育研究を行います。	藤嶽 暢英 鈴木 武志 木田 森丸	教授 助教 助教
		植物栄養学	植物成長の鍵となる光合成および無機養分の生理的営みを解明することを目的に、生理生化学的・分子生物学的手法を用いて新規な事実を明らかにするための研究技術・思考法を身につける、かつ、それらをバイオマス増産に役立てる教育研究を行います。	三宅 親弘 嶋川 銀河	教授 助教
		植物遺伝学	植物の遺伝機構に関する教育研究を、分子、細胞、個体、集団、ゲノムを対象として行います。特に、農業生態系における種形成のメカニズムの解明を目指します。また、基礎研究から得られた知見を応用的に展開し、環境と調和した作物生産システムの構築に貢献できる人材を育てます。	松岡 由浩	教授
		栽培植物進化学	栽培化を経て生まれた栽培植物は、以降人類との共生関係を築いてきました。当分野では遺伝学、生態学、フィールド科学など多角的な教育研究を重視し、栽培化に関与した遺伝子の同定とその機能の解明を通じた栽培植物や近縁野生種の多様性と進化機構の理解を目指します。	森 直樹	教授
		細胞機能構造学	生物の基本単位は細胞にあります。農作物に限らずあらゆる生物が持つ機能を人間社会で有効に利用するためには、細胞の機能や構造に関する知見が必須です。当教育研究分野では、特に真核微生物(主に糸状菌)を材料として、分子生物学と電子顕微鏡等を用いた細胞学により、エピジェネティックな遺伝子制御機構や植物への感染機構の解明に関する研究を進めています。	中屋敷 均 池田 健一	教授 准教授
		環境物質科学	生命・農環境およびヒト環境中の多様な生体物質および環境負荷物質の挙動に注目が集まっています。これら環境負荷物質に対し、応用遺伝子工学的手法、応用生物工学的手法を駆使した研究と実証・実践を通じ、安全・安心な生命環境を目指した教育研究を行います。	今石 浩正 ▲ 乾 秀之 ▲	教授 准教授
		細胞機能制御学	生命現象における「細胞の機能と制御」について理解するため、シグナル伝達、エネルギー変換など生命活動に重要な役割を多く果たしている生体膜に注目し、その分子機構の解明と社会への応用に向けた教育研究を行います。	森垣 憲一 ▲	教授
		植物病理学	植物病原微生物の病原性機構、植物の抵抗性機構、ならびに両者の相互作用のダイナミクスを生理・生化学、遺伝学、分子生物学などのさまざまな手法を用いて解析し、植物の病理現象の理解に向けた教育研究を行います。	土佐 幸雄* 足助 聡一郎	教授 助教
		昆虫分子機能科学	昆虫の多様性と特異性を、人を始め他の動物との比較の中から解明し、昆虫の形態形成や行動、生理機能を制御するメカニズムを、分子的、物質的なレベルで明らかにし、害虫防除や有用昆虫の資源利用の道を探る教育研究を行います。	坂本 克彦 ▲	教授
昆虫多様性生態学	植物の宿敵あるいはパートナーとして長い共進化の歴史を持つ昆虫について、その多様性、生態系機能および植物や微生物との相互作用を理解し、害虫抑制、花粉媒介、物質循環、文化的価値など、昆虫による生態系サービスを増進するための教育研究を行います。	杉浦 真治	准教授		

備考:▲印はバイオシグナル総合研究センター所属の教員。

備考:*印は令和7年3月で退職予定の教員。

(参考) 入学試験の状況

(令和2年度～令和6年度)

専攻	募集人員	年度	講座	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		
食料共生システム学	26	R2	生産環境工学	23(3)	23(3)	23(3)	22(3)		
			食料環境経済学	9(3)	9(3)	7(2)	6(2)		
		R3	生産環境工学	20(2)	20(2)	18(2)	18(2)		
			食料環境経済学	9(1)	9(1)	8(1)	7(1)		
		R4	生産環境工学	21	18	17	16		
			食料環境経済学	9	7	5	5		
		R5	生産環境工学	21	20	20	20		
			食料環境経済学	11(1)	10(1)	8(1)	5(1)		
		R6	生産環境工学	23	22	21	21		
			食料環境経済学	8	7	7	7		
		資源生命科学	42	R2	応用動物学	26(2)	24(2)	24(2)	24(2)
					応用植物学	27(2)	26(2)	25(2)	21(2)
R3	応用動物学			27(2)	25(2)	23(2)	23(2)		
	応用植物学			28(1)	26(1)	25(1)	22(1)		
R4	応用動物学			27	27	26	25		
	応用植物学			31	29	28	27		
R5	応用動物学			24	24	23	22		
	応用植物学			24	24	23	22		
R6	応用動物学			28	27	27	26		
	応用植物学			19	17	16	16		
生命機能科学	52			R2	応用生命化学	43(5)	39(5)	32(3)	32(3)
					応用機能生物学	26(2)	26(2)	25(2)	24(2)
		R3	応用生命化学	41(3)	40(3)	34(3)	30(3)		
			応用機能生物学	34(1)	32(1)	26(1)	26(1)		
		R4	応用生命化学	40	36	31	30		
			応用機能生物学	33(2)	32(2)	30(2)	26(2)		
		R5	応用生命化学	39(1)	39	32(1)	31(1)		
			応用機能生物学	30	30	27	26		
		R6	応用生命化学	42	42	32	32		
			応用機能生物学	31(1)	29(1)	25(1)	25(1)		

(備考) ()書きは、外国人留学生特別選抜及びKobe Global Graduate Program for Agricultural Science (Master's program)選抜を内数で示します。